



赤旗 読者通信 改題

2024.1.1 通巻No. 1632

日本共産党 小矢部市委員会

市内七社 245 Tel 67-4322 Fax 67-4842

何でもご相談を



市議会議員 上田由美子 68-2106 Fax 68-2146



参議院議員 井上さとし



前衆院議員 藤野保史

禁断転載 複写配布

2024年 新年のごあいさつ



2024年の年頭に当たって『週刊明るい小矢部』読者の皆さんに、比例北陸信越ブロック予定候補の藤野やすふみ前衆院議員、平あや子さん、井上参院議員のあいさつを紹介いたします。

政治を変える一年に

前衆院議員

藤野やすふみ

新年あけましておめでとうから変えるチャンス。自民党政治と真正面から対決し、どの問題でも対案を示し、共同を何より重視する日本共産党の出番です。解散・総選挙に追いよ！

企業団体献金全面禁止法案を提出 参議院議員 井上さとし

「もう我慢ならん」すみずみから声が広がる中で新年を迎えました。昨年は、パーティー券も含めた企業団体献金全面禁止法案を参議院に提出。国会質問でケア労働や民間・公務の非正規ワーカーの待遇改善を繰り返し要求。九条を持つ国としてガザ侵攻の中止と即時停戦を求めるよへ、全力を尽くします。



小矢部市議会が「即時停戦」を決議

小矢部市議会は12月議会最終日の21日、県議会につづいて「パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦を求める決議」を全会一致で採択しました。12月12日の国連総会の緊急特別会合で採択された「人道的目的の即時停戦を求める決議」の早急かつ完全な履行を強く求める内容です。

「ガザでの即時停戦を」 虐殺を止めて

市民団体
イスラエル大使に、市議会に 訴える

ガザでイスラエル軍による攻撃で子どもや女性を中心に2万人を超える犠牲に、多くの市民が心を痛めています。私たちに何ができるのか、憲法をまもる小矢部の会はイスラエル駐日大使にメールとFAXで停戦を求めました。「できる人が、できるときに、できることをすること」が今求められているのではないのでしょうか。続いて憲法をまもる小矢部の会と小矢部平和委員会は12月7日に市議会に「ガザの虐殺をただちに停止し、平和条約への話し合いを始

請願に賛成討論

上田市議



10月に始まったパレスチナガザ地区での戦争に、多くの市民は心を痛めています。ガザでは病院が破壊され、食料不足で免疫力が低下し感染症が広がる中で、医師も薬も足りない状態です。

国連総会は12月12日、イスラエルが軍事進攻を続けるパレスチナガザ地区に関する緊急特別会合を開き、「即時の人道的停戦」を求める決議を153カ国の賛成多数で採択しました。これは、全加盟国の8割に達しています。反対はアメリカやイスラエルなど10カ国、イギリス、インドなど23カ国は棄権しました。

日本は10月28日の国連総会緊急特別会合では棄権しましたが、今回は賛成しました。日本国内で、パレスチナに平和を求める多くの個人や団体の運動によるものです。街頭での訴えや、イスラエル大使館に抗議文を届けるなど、多様な活動が行われました。

小矢部市でも、憲法をまもる小矢部の会が11月18日イスラエル駐日大使に要請文を送りました。また、12月8日には全国で母親連絡会や平和委員会などが、「日本政府はガザ攻撃中止を求める外交を」と訴える平和行動を行いました。

この国連総会決議に賛成した日本政府は、アメリカの顔色をうかがうのではなく、アメリカ政府に対し、



国連総会の決定に従うことを強く求めています。くべきだと思います。日本国憲法の前文で「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しようと決意した。」とあり、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」とあります。日本政府が日本国憲法の立場で、ガザでの即時停戦と、イスラエル、パレスチナ双方の生存権を認め合う方向で話し合いに入るよう外交行動を行うことは、停戦実現に必要であり、大きな力になります。私は、人道的休戦実現のため小矢部市議会がこの請願を採択されるよう訴えます。